

## 文化・芸術

### 「みえないもの」

2022年、染料・麻布、綿布  
300.0cm×300.0cm

撮影 木暮伸也

RIPPLE YOHINTEIN (2009年)

抽象画の大画面のように3辺四方の木枠を埋め尽くす色・かたちのさまさまな服。さざ波のようにざわめきつつも調和し、多彩な光を放ちながら、空間を創出しています。RIPPLE YOHINTEINにとって、「色」とは自由。調合や染め重ねによってつくり出された色は、二度と出会えません。人の数だけ個性があるように、服の数だけ色があります。

波紋を意味するリップル (ripple) のユニット名には「葉からしずくが落ち、水面に波紋が広がっていくように、私たちがつくりだす一着の服がどこまでも伝わっていったら」との希望が込められ、夫婦2人によるユニットとして2009年から制作活動を続けています。さまざまなインスピレーションから一点一点丁寧に作られるオリジナルの服は多くの人を魅了し、水道山の中腹で月最初の7日間オープンするアトリエショップへは遠方からもお客さんが楽しみに来店します。一つ一つとの出合いを大切に作る制作の思いが、服を通して伝わってきます。(大谷)



### 《名画の扉》

大川美術館企画展「桐生のアーティスト2022 Natural Mind and Natural Color in KIRYU」から